



令和7年度

宇小だより (2月号)

令和8年2月2日
かほく市立宇ノ気小学校
TEL 283-0014
校長 榎 千穂子



ホームページはこちら

学習面・精神面での成長を願って

校長 榎 千穂子

1月24日(土)、25日(日)は寒気の影響で積雪が急増し、週明けの月曜日には児童の登校が危ぶまれました。しかし、かほく市の除雪スピードは素晴らしく、昼過ぎには除雪が順調に進んでいることや、通常通り登校が可能であることがメールで配信されました。市民の足を守り、子供たちの学びを止めないために、多くの方々が夜通し除雪作業をしてくださったのだと思うと、本当に頭が下がる思いです。学校でも雪が降ると、6年生を中心に多くの子供たちが朝早くから外に出て除雪をしてくれます。こんもりと雪で埋まったスクールバスの歩道や、給食車が入ってくる体育館横の通路も子供たちのがんばりによって次々に雪が取り除かれていきました。登校中、雪で見えなくなった段差につまずいて転んだ低学年を心配し、そばに寄り添ってくれた6年生もいました。



先日、職員室に「自分たちが作った雪だるまがこわされました」と訴えにきた子供たちがいました。せっかく作った雪だるまがこわされたことに憤りを感じてのことだったようです。昔から日本には「八百万(やおよろず)の神」という考え方があり、特定の神様だけを信仰するのではなく、山や川、木や石、風や火、さらには人の営みの中にも神様が宿ると考えられてきました。この考え方は、日本人の生活や心の在り方に深く根付いてきました。自然を大切にすること、物を粗末にせず感謝の気持ちをもって接すること、人が作った物の中には作った人の心が込められているため、それを大切にすることなど、はっきりと形のない存在を敬う心が日本の精神文化を育んできました。こわされた雪だるまの中にも、友達と力を合わせ、大事に作った子供たちの心が込められていたのだと思います。人の思いは目には見えませんが、感じることはできます。全校集会ではこの「こわされた雪だるま」の話を通して、自然や物を大切にするとともに、物に込められた人の気持ちを感じ取れる子であってほしいという願いを子供たちに伝えました。

今年度も残り2ヶ月となりました。学習面、精神面の両面での成長を願い、今後も指導を行ってまいります。保護者の皆様には、引き続きご理解とご協力をお願いいたします。

1 / 29 (木) 授業参観

大雪の日となりましたが、多くの皆様にご参観いただき、ありがとうございました。授業参観アンケートには、「1年間の成長を感じました」「友だちと仲良く過ごしている姿を見ることができてうれしかったです」など、子供たちの成長を感じていただけた感想が多く寄せられ、私たち職員も大変うれしく思っております。雪の影響により運動場が駐車場として使用できず、保護者の皆様にはご不便をお掛けしましたが、徒歩でのご来校にご協力いただき、ありがとうございました。また、PTA役員・委員の皆様には駐車場の誘導や受付などにご協力いただき、心より感謝申し上げます。

